

# JARL CONTEST REVIEW

## 2002 ALL JA Contest

技術や設備の差が現れるスリリングなコンディションだった今年の ALL JA

JARL コンテスト委員会

日本で最大級のコンテストである ALL JA コンテストが今年も 4/28～29 の日程で開催されました。今年の日曜の夜から祝日の月曜夜までの開催となり、3 連休の後半に行われるスケジュールでした。土曜日に準備作業が出来た局には参加がし易かったのではないかと思います。天候的にもひどく荒れたところはなかったようで、移動運用も問題が少なかったと思われます。

コンディションの方は、ローバンドは比較的安定していたようですが、ハイバンドの開け方は限定的なもので、散発的なオープンのタイミングを捉えたり、スカッター方向を探らなくてはならず、簡単に楽しめる感じではなかったようでした。しかし、逆にこういうコンディションの時のマルチの

集め方や QSY の仕方などに、日頃のコンディション把握や設備・運用技術が差となって現れてくるので、競技的にはスリリングであったとも言えるでしょう。

### ルール改定の効果はいかに

今年から一部規約が改正され、電話部門が創設されました。今まで 4 アマの方は、電信が出られないのに電信電話部門にエントリーするしかありませんでした。電力、モード、バンド (14MHz を含まない) で、差が出ない同じ土俵で競技することができるようになりました。今回の電話部門の参加局数は、344 局 (電信部門は 654 局、電信電話部門 991 局) でした。初回にしては一定数の参加局数があったと言えますが、今後より一

層告知 PR を行うことで今までコンテストに参加したことがない 4 アマ局にも参加いただけるようになればよいと考えています。

また今回から表彰の仕方が、電力別部門を残しつつも、総合的な順位が表せるように HMP・MP での表彰が行われるようになりました。このことにより、電力別部門が導入されるまでの表彰に近い形となり、例えば、電力的に有利な H の局が M の局より低い得点で優勝するというはなくなりませんでした。

このコンテストからコンテストドナー及びコンテストアワードが始まりました。ドナーによる表彰者には楯が贈られます。コンテストアワードの申請者には入賞局と同じ賞状用紙にアワード名が印字されて、贈られます。

このような規約改正等が行われましたが、参加局数が大幅に増えたというところまでは至っておりません。規約などが変わったからコンテストに参加する、という人は元々コンテストに興味のあった一部の方に限られるようです。コンテストに参加されている方は、ローカルや知り合いにコンテストの参加を呼びかけていただけたらと思います。

### 新設された電話部門、やはり 10W は厳しいか

電話部門が新設されたことで、この部門に興味持たれて参加された上級局も多かったようです。もちろん上級局であっても、規約通りに参加されれば OK ですし歓迎です。10W が意外と飛ぶのか、飛ばないと感じるのかは、バンドにより異なるようです。やはりローバンドでの電話 10W はキビシイ感じであったようです。21MHz では九州沖縄の局が上位になっています。特に 21MHz の 1 位の JS6QKI が 440QSO で、電話部門の最高 QSO 数でした。28MHz は今回 Es がほとんど開かなかったようでした。

50MHz は移動局が高 QSO 数を上げています。この部門は、じっくり呼びまわって QSO を積み

上げることが必要のようです。自分なりの目標を立てて、ANT 系を整備したり移動運用をするなどで、入賞の可能性も出てくるようです。

### 根強い人気の電信部門

電信部門はやはり根強い人気があるようで、参加局数も多いです。今回はハイバンドの開催具合が今ひとつであったこともあり、1 エリア近辺が比較的順位を上げたようです。マルチバンドでは JG1ILF が 50MHz を含めてバランスよくマルチを稼いで 1 位となりました。ローバンドでは 1 エリア及び中日本が上位を占めました。一つ頭抜けて 1 位になる局は運用方法などに長じたところがあるのだと思われます。14MHz は近距離まで十分開かず、4, 6, 7, 8 エリア局が上位になったようです。21, 28MHz はグラウンドウェーブでの QSO ができる 1 エリア近辺が上位になりました。50MHz は微妙なオープンを捉えた局はマルチを取れたようですが、やはりグラウンドウェーブが主体であったようです。

マルチオペでは JK6SEW が高得点を上げました。

### 電信電話部門は 7MHz と 50MHz がカギ

電信電話部門は、最も参加者数が多い部門です。ハイバンドがあまり開かないため、7MHz を主に各バンドまんべんなくマルチを取れた局が上位になったようです。今回はさらに 50MHz が使える局が順位を上げたようです。マルチバンドでは JH4UYB が抜群の局数・マルチ数で 1 位となりました。

7MHz で 1000QSO オーバーの JF2FSM を除いて、3.5~14MHz の上位は M パワー局がほとんどです。14~21MHz では 5, 6, 7 エリア局が上位になりました。28MHz はグラウンドウェーブ主体だったようです。50MHz はスキッターを捉えた局が上位となりました。マルチオペでは JA1ZLO が 1 位となりました。2 波では JH4UHW が高得点を上げました。

それぞれの環境で、楽しみながら、局のハード・ソフトを向上させていくのがアマチュアらしいコンテストの参加の仕方だと思います。コンテストアワードで AJD や 100QSO 等を目標にするなど、今後ともコンテストをお楽しみください。